

松永 重昌



概要

氏 名 松永重昌（まつなが しげまさ）
職 業 伝統工芸者（弓師、和弓の製作）
住 所 芦北郡芦北町大字白石78
主な活動地 芦北町

（特別賞）

松永重昌氏は、昭和二十二年から初代肥後三郎の父重児氏の下で修行を始め、五十余年の長きにわたり、良質の真竹、ハゼ、ニベ（鹿の皮を煮詰めて作った接着剤）など伝統的な材料と伝統的な技法により「肥後三郎弓」の製作を続けている。

肥後三郎弓の特徴は、京弓のしなやかさと薩摩弓の強さというそれぞれの長所を合わせ持つ点であると言われる。これは、伝統的な材料と接着剤であるニベの使い方に松永氏独自の工夫が施されているためであり、熟練した技術が必要とされる。合成の接着剤を使ったものやグラスファイバー製のものが多くなった現在、同氏は一貫した手作りによる弓の製作者として貴重な存在である。

また、弓の製作を行う傍ら、県伝統工芸協会顧問として、本県の伝統工芸の振興に努める一方、全国弓道具協会副会長や県弓道連盟常任理事として、弓道の普及発展にも貢献している。更に、肥後三郎弓の愛用者でもあるヨーロッパ連合弓道連盟会長オライエン氏との交流を通じて海外への弓道の普及に尽力している。

伝統工芸の後継者不足が危惧される中、現在、後継者の指導育成にも情熱を注いでおり、今後とも同氏の更なる活躍が期待されている。

これまでの活動歴

昭和二十二年	父松永重児氏の下で弓師の修行を始める
昭和六十年	肥後三郎二代目を継承 全国植樹祭開催期間、天皇陛下が県伝統工芸館の御視察の折、陛下の前で実演披露
昭和六十二年	肥後三郎弓が熊本県伝統工芸品の知事指定を受ける 熊本現代の匠（熊本日日新聞社）表彰
平成六年～十年	熊本県伝統工芸協会会長就任
平成八年	全日本弓道具協会副会長就任
平成九年	熊本県弓道連盟常任理事就任
平成十年	熊本県芸術祭四十周年記念感謝状 熊本県優秀技能者表彰